

特定漁港漁場整備事業計画変更書(案)

1 変更理由

変更理由

(1) 島平防波堤の位置変更

島平地区においては、港内の静穏度及び航路の安全確保のため、島平防波堤(突堤)をL=90.0m計画していたが、当該地区は薩摩半島の西側に位置し、吹上浜県立自然公園に隣接した風光明媚な地域であることから、地元住民より防波堤整備に伴い、景観への影響を懸念する声が聞こえ始め、自然環境との調和に配慮した整備を検討してきたが、地元の理解が得られず、建設場所の見直しを余儀なくされた。その後、地元漁業者と調整を行うとともに、当初目的である航行限界波浪時(通常荒天時)の航路の静穏度確保、台風波浪時(激浪時)の湾奥部の静穏度確保に必要な施設の代替案を検討した結果、防波堤(内)を起点としてL=160m整備することが妥当と判断されたことから、今回位置の変更を行うものである。

(2) 浮棧橋(改良)の追加

島平地区の浮棧橋については、干満差対策、陸揚げ岸壁の不足解消を目的に、活魚取扱のための生け簀機能を合わせ持った施設として整備された施設である。しかしながら、現在では施設鋼材の腐食・破損が激しく、水揚げに際し車の乗り入れができず、荷捌き場まで人力による水揚げ作業を余儀なくされている。また、水揚げ作業時において、日差しや雨滴に直接さらされていることから、衛生対応策も講じる必要が求められている。

今回、水揚げされた漁獲物の鮮度保持のため、庇の整備による防雨・防暑対策を付加した浮棧橋として改良を行いたい。

(3) F護岸・-2.0m泊地・-2.0m物揚場D・浮棧橋(島平)・D道路・用地Dの廃止

島平地区漁港利用の小型漁船数については、漁業従事者の高齢化及び後継者不足等により年々減少傾向にあり、充足率、既存施設の有効活用による土地利用の見直しを行った結果、島平地区の物揚場新設等の施設整備を廃止したい。

(4) 護岸(改良)・胸壁(改良)の追加

島平地区においては、冬季風浪時等における強風のため、漁船の接岸及び陸揚げ作業に危険を伴うとともに、接岸や陸揚げ作業等の漁業活動において時間的ロスが大きい状況となっている。このことから、既存施設の改良を行い、防風柵の整備を行うことにより漁業活動の安全性・効率化の確保を図りたい。

(5) 魚礁の追加

漁獲量の減少・魚価の低迷、燃料価格の高騰等により、串木野漁港における沿岸漁業従事者の経営状況は厳しいものとなっている。漁家経営の安定化のため、今後更なる漁場の保護・育成や水産ブランドの確立、若年漁業者の育成等が大きな課題となっている。今回、年間約5.7tの生産量の増大を目標として魚礁の設置を行い、沿岸漁業生産量の増大と操業の効率化・省力化による漁家経営の安定化を図りたい。

2 変更後の目的

目的

(1) 地域の特徴

本地区は、鹿児島県薩摩半島西部、日本三大砂丘のひとつである吹上浜の北端に位置し、自然に恵まれた風光明媚な景観を形成し、自然環境や資源などを最大限に生かした特色ある町づくりが進められてきた地区である。また、古くから遠洋マグロ漁業や水産練製品加工業など、水産業を中心に発展してきた地区でもある。

本漁港においては、臨海部での西薩中核工業団地の造成、串木野新港、漁港外港の整備など、港湾都市としての条件整備が図られ、さらには臨海部の機能を最大限に活用するため、自動車専用道の南九州西回り自動車道や九州新幹線鹿児島ルートなど、高速交通体系も着実に整備されつつある。

また、本地区沖合は魚の宝庫といわれる東シナ海を控え、好漁場に恵まれており、多種多様な水産動植物が生息していることから、県内外漁船により豊富な魚種が漁獲されている。

(2) 水産業の沿革と現状

本地区は、枕崎、阿久根漁港とともに県下有数の漁業の根拠地となっている。周辺海域は好漁場に恵まれ、イワシ、アジ、サバなどが水揚げされる。なお、55隻の近海遠洋マグロ漁船が所属しており、現在、母港基地化を目指し、施設整備中である。また、近海の巻き網及び沿岸漁業の水揚げも盛んで、西薩、甑島周辺漁業の生産と流通の中心的漁港として大きな役割を担っている。

近年、串木野市全体の水揚げ量は減少傾向にあるが、主たるマグロ漁業は平成7年をピークにやや減少したものの、平成8年以降、横ばいが続く状況であり、漁港施設整備等により、安定した漁獲高を維持することが期待されている。

また、本漁港は遊漁船の増加傾向並びにその収容場所の問題が深刻化していることから、これら遊漁船と漁船との間でしばしばトラブルが発生し、漁業活動に支障をきたすことも多く、問題を解消するための対策も必要となっている。

(3) 漁港漁場整備の沿革と役割

本漁港は、鹿児島県西部吹上浜の北端に位置し、西は前面に甑島を控えた東シナ海に面し、枕崎、阿久根漁港とともに県下有数の漁業の根拠地となっている。

本漁港は、甑島近海で獲れるイワシ、アジ、サバの水揚げに適した良港として、大正10年12月、築港起工され、昭和26年9月に第3種漁港の指定を受けた。また、漁船の大型化に伴い、昭和57年には串木野漁港外港建設工事に着手した。

現在では、400トンクラスのマグロ船や巻き網船、500トンクラスの餌料船及び沿岸漁業の漁船が利用し、生産と流通の拠点となっている。

本浦地区・野元地区の船溜まりは、沿岸漁船の船溜まりとして活用され、約120隻程度の沿岸漁船やプレジャーボートが利用している。特に、台風時には近隣の漁船も利用する避難港となっている。

島平地区の船溜まりは、島平漁協を主体とした沿岸漁業の根拠地であり、小型漁船を対象として漁港整備が進められている。

また、島平地区と照島公園の内側には遊漁船などを漁船溜まりから分離係留するため、フィッシャリーナが整備されつつあり、完成すると海洋レクリエーションの基地として観光にも活用できることとなっている。

(4) 当該事業計画の目的

1. 水産物資源の持続的利用と良質な水産物を安全で効率的に供給する体制の確立

遠洋マグロ漁業は、明治初期の長崎県五島沖を漁場とする「サバ漁」から、韓国近海を漁場とするカジキ延縄漁業に発展し、現在、世界の海を漁場とする主力産業に発展してきた。

本漁港にはマグロ船が在籍し、年間116億円(属人)の水揚げがある。しかしながら、大消費地は関東近郊であり、現在は水揚げも関東地区である。そこで、漁港周辺地域の活性化を図るため、本漁港のマグロ漁業の母港化を進める。また、下降気味である沿岸・沖合漁業の安定を図るため、安定かつ安全で効率的な水揚げ・荷捌き体制に資する整備を行う。さらに、遊漁船と漁船を分離係留できる施設整備を行い、漁業活動の円滑化と安全性の向上を図る。

3 変更後の施工に係る区域及び工事に関する事項

(1) 変更度の区域に関する事項

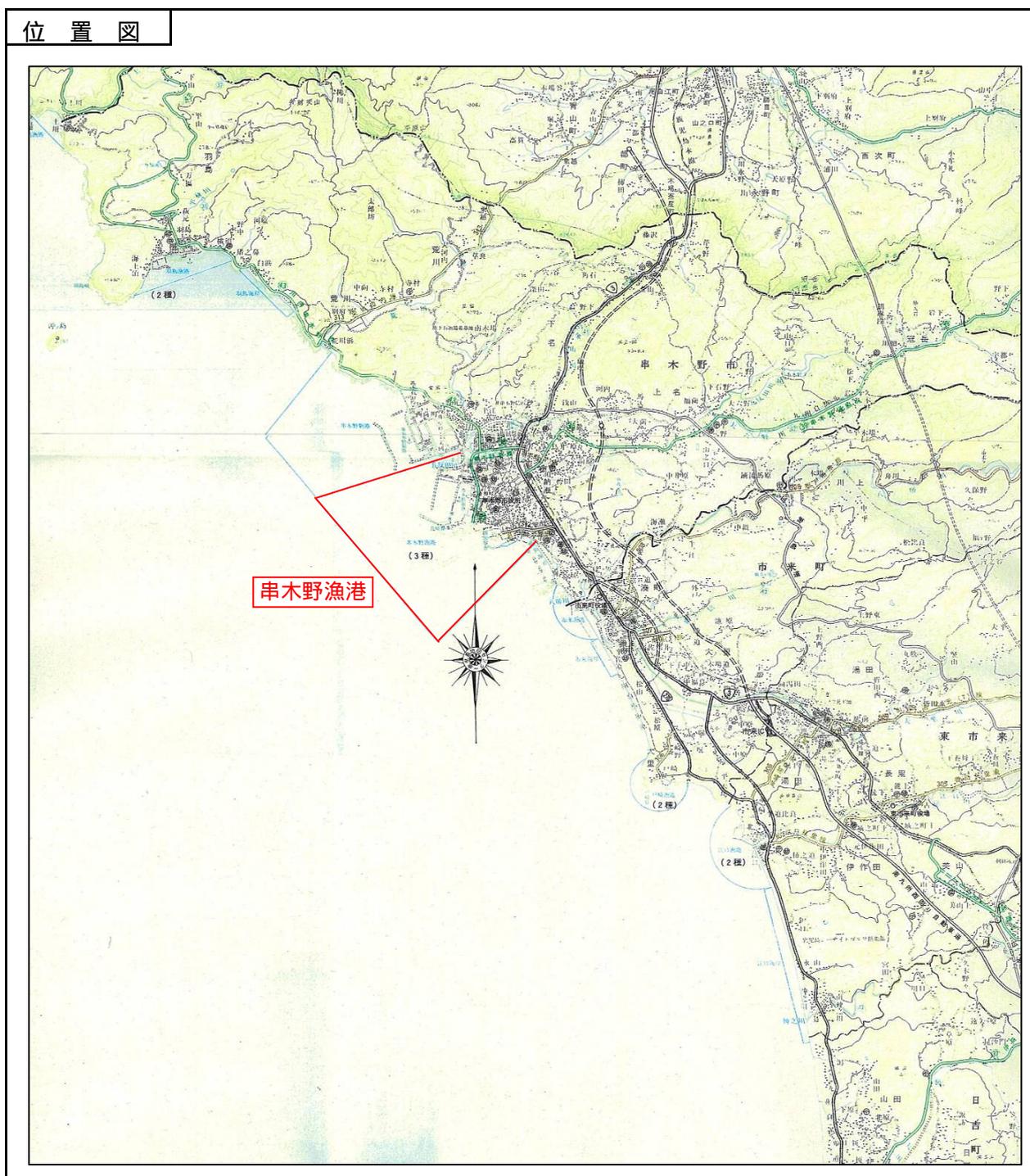
イ 区域名

区域名	串木野地区
-----	-------

ロ 所在地等

都道府県名	鹿児島県	関係市町村名	いちき串木野市
地域指定	半島，都市計画区域		
整備対象漁港名	串木野漁港	整備対象漁場名	

八 変更後の位置図



写真等



全 景

撮影年月日 平成19年 6月7日

二 当該地区の水産業に係る現況，課題及び整備方針

当該区域の水産業に係る現況，課題及び整備方針

圏域の県内での役割

串木野漁港の属する西薩圏域については，鹿児島県西部の吹上浜北部に位置し，鹿児島県西部域内で唯一アジ・タイ類等の活魚の漁獲の実績がある。特にシラスの陸揚量については，県内の約3割強を占め，シラスの加工品であるチリメンは全国各地へ出荷されている。

当漁港の圏域内での役割とそのための整備方針

串木野漁港は，圏域内の陸揚量の4割弱の水揚げを占めるとともに，市場も開かれており，近隣の漁港からも陸揚げされた漁獲物が集積されていることから，流通拠点として位置付けられている。

近年，いちき串木野市全体の水揚げ量は減少傾向にあり，主たる漁業のマグロ漁業は平成7年をピークにやや減少したものの，平成8年以降横ばいの状況であり，漁港施設整備を行うことにより安定した漁獲高を維持することが期待されている。

また，港内静穏度不足や干満差等により，陸揚げ作業時に潮待ちの状態が発生するなどして，陸揚げ作業等に大きな時間的ロスが発生しており，漁獲物の鮮度保持の観点からも支障がある。今後は，安定した漁業活動と陸揚げ作業時間の短縮を維持するため，港内静穏度向上に対し外郭施設の整備を行うとともに，干満差が大きいことなどによる漁業活動の非効率的な状況や日差しや雨滴による漁獲物への影響等に対し，庇等の防暑・防雨対策を付加した浮体式係船岸等の整備を行うなど，効率的な漁業活動を確保し漁獲物の鮮度保持向上を図る。

(1) 資源管理型漁業・つくり育てる漁業への支援

現状と課題

串木野地区において水産業は地域を支える基幹産業であるが，近年，漁業従事者の減少・高齢化が進行し，加えて昨今の燃油の高騰や魚価の低迷等により漁業所得も減少傾向にある。いちき串木野市においては，漁獲量の増大を図るため，平成17年度漁場機能高度化事業にて魚礁を設置し，多くの魚介類が確認されたことから，今後の水揚げ増に期待しているところである。

また，ヒラメ・マダイの稚魚放流やイカの産卵礁設置を行うことにより，魚族資源の増大を図るとともに，ワカメの藻場造成事業による漁場の保護・育成等にも努め，漁家経営の安定化に取り組んでいる。

整備方針

今後も更なる漁場の保護・育成や水産物ブランドの確立，若年漁業者の育成等が大きな課題であることから，ヒラメ・マダイ等の放流事業を継続し，つくり育てる漁業の推進により漁家所得向上に努める。

また，今回串木野漁港の地先に魚礁を設置することにより，年間約5.7tの生産量の増大を行い，沿岸漁業生産量の増大と操業の効率化・省力化を図りたい。

(2) 水産物流通の効率化と一貫した品質管理

現状と課題

現在，係留施設・漁港施設用地等が不足しているため，効率的な水産物出荷体制が整っておらず，生産性が低下している。

整備方針

浮桟橋等を整備することにより，水産物の流通の効率化が図られ，更に活魚・高鮮度魚を取り扱う体制づくりが図られ，水産物の品質が向上し，安定的な出荷体制が整う。

(3) 安全で快適な漁業地域の形成

現況と課題

串木野漁港は台風の影響を受けやすい位置にあり、特に島平地区においては、荒天時及び台風時の静穏域が3割程度しかなく、漁船を安全に係留できる施設延長が確保されていないことから、島平地区の漁船は本浦地区に避難せざるを得ず、また、本浦地区にはその他近隣の漁港からも漁船が避難してくることから、混雑を招いているうえ、漁船同士の接触事故等の問題も生じている。

また、通常荒天時においても、陸揚げ作業・休憩のための接岸作業等に時間を要しているとともに、潮位差が3mと大きく、陸揚げ作業等に多大な労力を強いられていることや、静穏度が確保されていないことから船舶の動揺により、安全性が十分確保されておらず、危険な作業を強いられている状況にある。

さらに、串木野漁港はプレジャーボートの利用も多く、漁船とプレジャーボートが輻輳することにより漁業活動の支障となっていることから、漁船とプレジャーボート等の分離係留が望まれている。

整備方針

防波堤を整備し、陸揚げ用・準備用係留施設を整備すること等により、港内静穏域が拡張されるとともに、港内及び荷捌き用地の混雑の緩和が図られ、出入港時の安全性や、それにともなう労力の軽減が図られる。

また、併せて、浮棧橋を整備することで、陸揚げ作業の労力が軽減されるとともに、危険な作業が緩和され、安全性が向上する。

さらに、遊漁船と漁船がそれぞれ接岸できる係留施設を整備することにより、円滑な漁業活動が確保される。

(4) 生産労働効率化・近代化・担い手支援

現況、課題

現在、係留施設が不足していることから、陸揚げ、準備作業時において、沖待ちの状態が発生しており、漁船の休憩時においては、防波堤を利用せざるを得ない状況にある。

整備方針

係留施設を整備することにより、施設の混雑緩和が図られ、時間調整等、係留するための時間が軽減され、それに伴う労働時間の短縮が図られる。

さらに、浮棧橋を整備することにより、小型漁船の水揚げ作業が潮位の干満の影響を受けることなく常時行えるようになり、それに伴い作業効率が向上し、労働時間の短縮が図られる。

ホ 整備対象漁港及び整備対象漁場の現況及び将来見通し

(変更時の現況)

(平成17年12月現在)

整備対象 漁港名	属地陸揚量	797 トン	属地陸揚金額	435 百万円	属人陸揚量	16,745 トン
	登録漁船数	256 隻	利用漁船隻数	375 隻	漁船以外利用 船舶隻数	209 隻
串木野漁港 (第3種)	主な漁業種類 マグロ漁業, 引き網, 巻き網, 刺し網等			主な魚種 マグロ, アジ, フグ, イワシ, プリ, タイ		
整備対象 漁場全体	受益戸数(受益者数) 72戸 (72人)		登録漁船隻数 漁港名又は港湾名 串木野漁港 72 総数			

(将来見通し)

(目標年:平成23年)

整備対象 漁港名	属地陸揚量	875 トン	属地陸揚金額	435 百万円		
	登録漁船数	256 隻	利用漁船隻数	375 隻	漁船以外利用 船舶隻数	209 隻
串木野漁港 (第3種)						
整備対象 漁場全体	受益戸数(受益者数) 戸 (人)		登録漁船隻数 漁港名又は港湾名 串木野漁港 総数			

将来見通しの考え方

属地陸揚量

近年、水産資源の減少や地元漁船の他港水揚げ量の増加に伴い、属地陸揚量は平成6年頃を境に年々、減少傾向にあるが、本事業の整備により、現在本漁港を拠点港として沿岸にて巻き網漁等を操業している県外船については、出漁機会の増加により属地陸揚量の増加が見込まれ、また、他港を拠点としている現在操業中の地元巻き網船についても、施設整備等による混雑解消が期待されることから、将来見通しについては、陸揚量が大きく増加することは難しいが、現状維持はできるものと判断し、平成15年～平成17年の平均程度と推定した。

属地陸揚金額

属地陸揚金額については、ほぼ現況と同程度の陸揚量が推定されることから、将来見通しについては、属地陸揚量の増減に影響されると判断したことから、平成15年度～平成17年度の平均程度と推定した。

登録漁船隻数

登録漁船数については、漁業従事者の高齢化及び後継者不足等により平成3年度以降減少傾向にあったが、平成16年度以降減少傾向も落ち着き、横ばいの状況であることから、将来見通しについては、今後も現況とほぼ同程度の漁船数と推定した。

利用漁船隻数

近年、前年度比で増減を繰り返しており、相対的には減少傾向にあるが、本事業の整備により県外漁船及び現在他港を拠点としている地元漁船の再利用が期待できることから、将来見通しについては、現況と概ね同程度と推定した。

利用遊漁船等隻数

利用遊漁船については、フィッシャリーナの整備状況により利用者数がある程度推定できることから、将来見通しについては、施設整備が完成した現況と概ね同程度として推定した。

(2) 変更後の工事に関する事項

イ 主要施設の種類，規模及び配置等
(漁港施設)

都道府県名	整備対象漁港名	漁港種類	所管	事業主体名		漁港管理者
鹿児島県	串木野漁港	第3種	本土	鹿児島県		鹿児島県
計画施設	計画工事種目	変更前の計画数量		平成19年	月第1回変更	備考
		単位	計画数量	単位	計画数量	
外郭施設	島平防波堤(突堤)	m	90	m	160	
	島平防波堤(内)	m	90	m	90	
	D防波堤	m	183	m	183	
	E防波堤	m	120	m	120	
	野元導流堤(改良)	m	117	m	117	昭和35,42年度整備
	沖防波堤(本浦)	m	110	m	110	
	護岸(改良)	m	0	m	80	昭和45,60年度整備
	D護岸	m	80	m	80	
	E護岸	m	70	m	70	
	F護岸	m	150	m	0	(29)
水域施設	-2.0m航路	m ²	4,000	m ²	4,000	
	-2.0m航路	m	50	m	50	
	-2.0m泊地	m ²	3,800	m ²	3,800	
	-2.0m泊地	m ²	13,700	m ²	13,700	
	-1.0m泊地	m ²	170	m ²	170	
	-2.0m泊地	m ²	2,200	m ²	0	(30)
係留施設	-2.0m物揚場A	m	240	m	240	
	-2.0m物揚場C	m	100	m	100	
	-2.0m物揚場D	m	160	m	0	(31)
	浮棧橋(本浦)	基	1	基	1	
	浮棧橋(島平)	基	1	基	0	(32)
	浮棧橋(改良)	基	0	基	1	平成4年度整備
	船揚場	m	20	m	20	
輸送施設	B道路	m	230	m	230	
	C道路	m	150	m	150	(21)
	D道路	m	420	m	0	(33)
	駐車場A	m ²	2,127	m ²	2,127	(22)
	駐車場B	m ²	5,032	m ²	5,032	(23)
漁港施設用地	用地C	m	7,800	m	7,800	(24)
	用地D	m ²	12,000	m ²	0	(34)
	用地E	m ²	400	m ²	400	(25)
	I護岸	m ²	20	m ²	20	(26)
	胸壁(改良)	m	0	m	65	(27) 整備年度不詳(大正時代)

(漁場施設)

都道府県名	整備対象漁港名	漁港種類	所管	事業主体名	漁港管理者
鹿児島県	串木野漁港	第3種	本土	鹿児島県	鹿児島県
計画施設	計画工事種目	変更前の計画数量		平成19年 月第1回変更	備考
		単位	計画数量	単位	
増殖用施設	魚礁	空m3	0	空m3	1,587 ㊸

□ 工事の着手及び完了の予定時期

着手(予定)年度	平成14年度	完了予定年度	平成23年度
----------	--------	--------	--------

八 計画平面図

計画平面図	別紙のとおり
-------	--------

4 変更後の事業費に関する事項

計画事業費	変更前の計画事業費	19年10月 第1回変更
	6,429 百万円	6,118百万円

5 変更後の効果に関する事項

1. 主要な水産関係別の事業効果		
<p>安全で快適な漁業地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 防波堤の整備により、荒天時及び台風時の港内の静穏度が拡張され、港内の混雑が緩和される。また、混雑緩和に伴い、作業の安全性の向上、漁船の耐用年数の向上(7年延長)効果が見込まれる。 係留施設の整備により、陸揚・準備作業時間の短縮(2割削減)や、休憩施設への係留作業時間の短縮(7割減)が図られ、陸揚・準備作業の円滑化による安定した漁業活動が見込まれる。 遊漁船を係留する施設を整備することにより、遊漁船と漁船の混雑が解消し、出入港のための時間短縮(5割短縮)効果が見込まれる。 <p>生産労働効率化・近代化・担い手支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 防波堤整備とあわせて浮棧橋の整備を行うことにより、労働環境が大幅に改善されることが見込まれる。 		
2. 地域に与える影響		
<ul style="list-style-type: none"> 本事業の実施により漁港機能の充実が図られ、安全性が向上することにより安心して水産業に従事することができるため、地域の活性化が図られる。 マグロ漁業は、いちき串木野市の基幹産業であり、安全なマグロ漁船及び運搬船の出入港が可能となることで安定した飼料・生活物資の需要が見込まれ(4割程度増)、いちき串木野市の経済に与える効果は大きい。 沿岸漁業においては、漁業者の高齢化が進む中、高齢者が利用しやすい漁港整備を行うことで、生産性が向上する。 		
3. 費用対効果分析結果		
社会的割引率	4.0%	投資期間 平成6年～平成23年
現在の価値化の基準年度	平成19年	施設の耐用年数 50年
貨幣化による分析結果		
	変更前の分析結果	20年2月 第1回変更
貨幣化した効果項目	<ul style="list-style-type: none"> 水産物生産コストの削減効果 漁業就労者の労働環境改善効果 生活環境の改善効果 	<ul style="list-style-type: none"> 水産物生産コストの削減効果 漁獲可能資源の維持培養効果 漁業就業者の労働環境改善効果 生活環境の改善効果 漁業外産業への効果
総便益額 B	10,007百万円	9,198百万円
総費用額 C	7,788百万円	6,125百万円
費用便益比率(B/C)	1.28	1.50
参考	純現在価値：(B-C) = 2,219百万円	純現在価値：(B-C) = 3,073百万円
	内部収益率：(IRR) = 5.2%	内部収益率：(IRR) = 6.4%
4. 事業の定量的・定性的効果(貨幣化が困難な効果)		
<p>当漁港は遊漁船対策のためのフィッシャリーナ整備も行っている。本計画において、防波堤等の整備により静穏水域が確保され、安全に船舶が係留できる施設としてPR活動も行うことにより、全国からのクルーズ船等の増加が見込まれ、地域経済の活性化が図られるものとする。</p>		

6 変更後の環境との調和に関する事項

環境との調和に関する事項

串木野地区は、鹿児島県薩摩半島の西部、日本三大砂丘のひとつ吹上浜の北端に位置することから、砂岩や岩礁などの変化に富んだ地形を有し、自然に恵まれた風光明媚な景観を形成している。

串木野漁港整備における砂浜への影響については、串木野漁港の位置する地点が北側の串木野新港と南西側の照島に挟まれた場所にあること、また外殻施設が沖側に設置されないこと等から、砂浜に与える影響は軽微である。

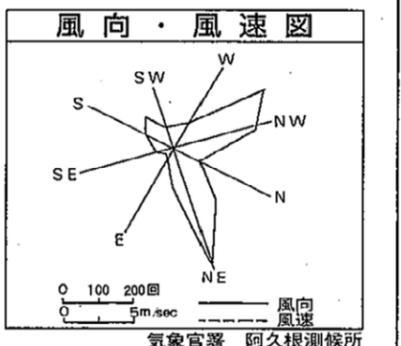
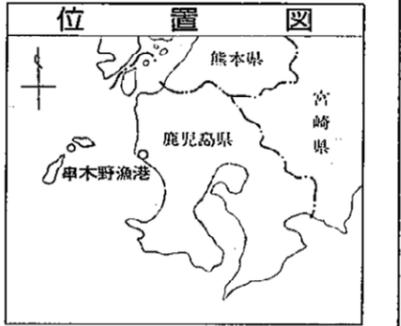
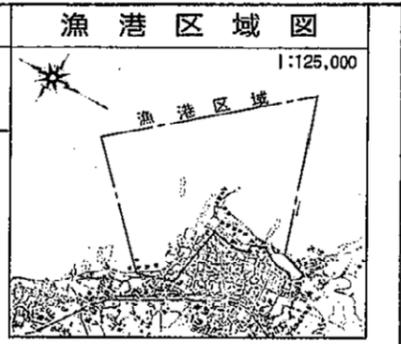
港内における海水は、外海に比べやや汚れており、防波堤新設によりさらに港内の海水交換が停滞することが予想されるが、荷捌き等で発生した汚水については、港内に流入させない等のハード・ソフト両面での衛生管理体制の強化を図り、水質悪化を抑える努力を行うものとする。

7 変更後の他の水産業に関する施設との関係に関する事項

施設名	施設規模・内容	本事業との関係	備考
活魚一時畜 養施設	畜養施設 (生け簀80基 A=24,000m ²) 浮棧橋 (台船1基 A=40m ²)	現在、泊地(-6.0m)の一部を活魚の一時畜養施設として使用許可しているが、外郭施設及び係留施設を整備することにより、活魚・鮮魚出荷の円滑な実施を底支えする。	事業主体： 串木野市漁協 利用占用期間： 平成14年4月 ～平成19年3月

漁港漁場整備長期計画
串木野漁港広域(特定)事業計画平面図

漁港番号	種別	所管	事業主体	管理者	施行場所
4930030	第3種	本土	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県串木野市本浦

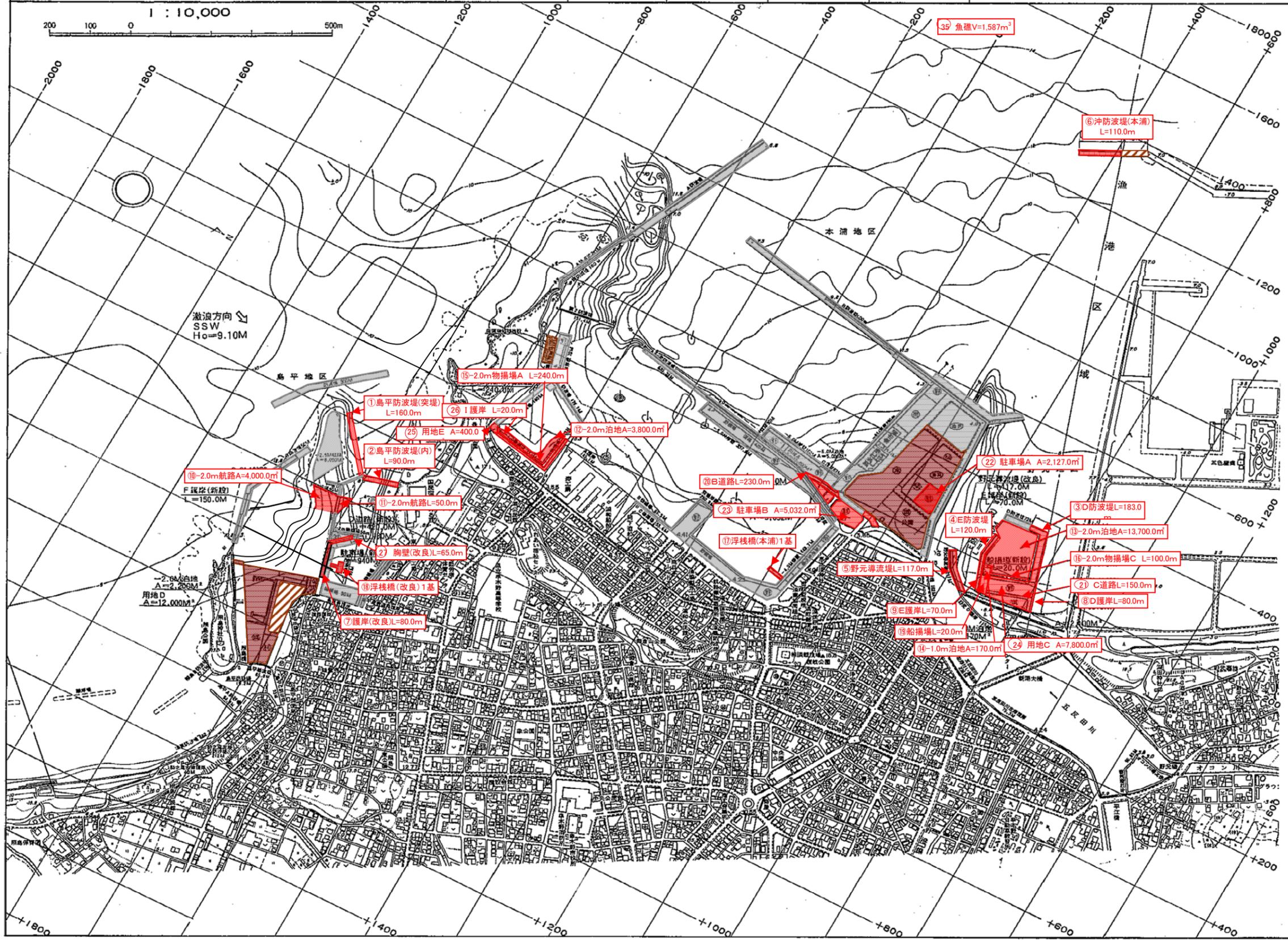


潮位図

H.H.W.L	+4.00
H.W.L	+3.00
T.P	+1.60
M.L.W.L	+0.70
L.W.L	±0.00

凡例

- 平成13年度まで済み
- 当該事業基本計画
- 他事業(H13迄に施工済み)
- 他事業(H14以降計画)
- 平成 年

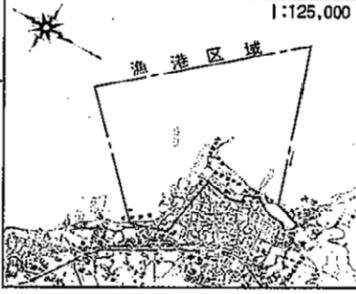


変更後

漁港漁場整備長期計画
串木野漁港広域(特定)事業計画平面図

漁港番号	種別	所管	事業主体	管理者	施行場所
4930030	第3種	本土	鹿児島県	鹿児島県	鹿児島県串木野市本浦

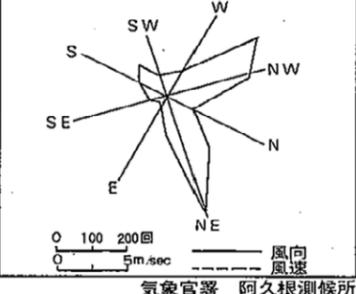
漁港区域図



位置図



風向・風速図

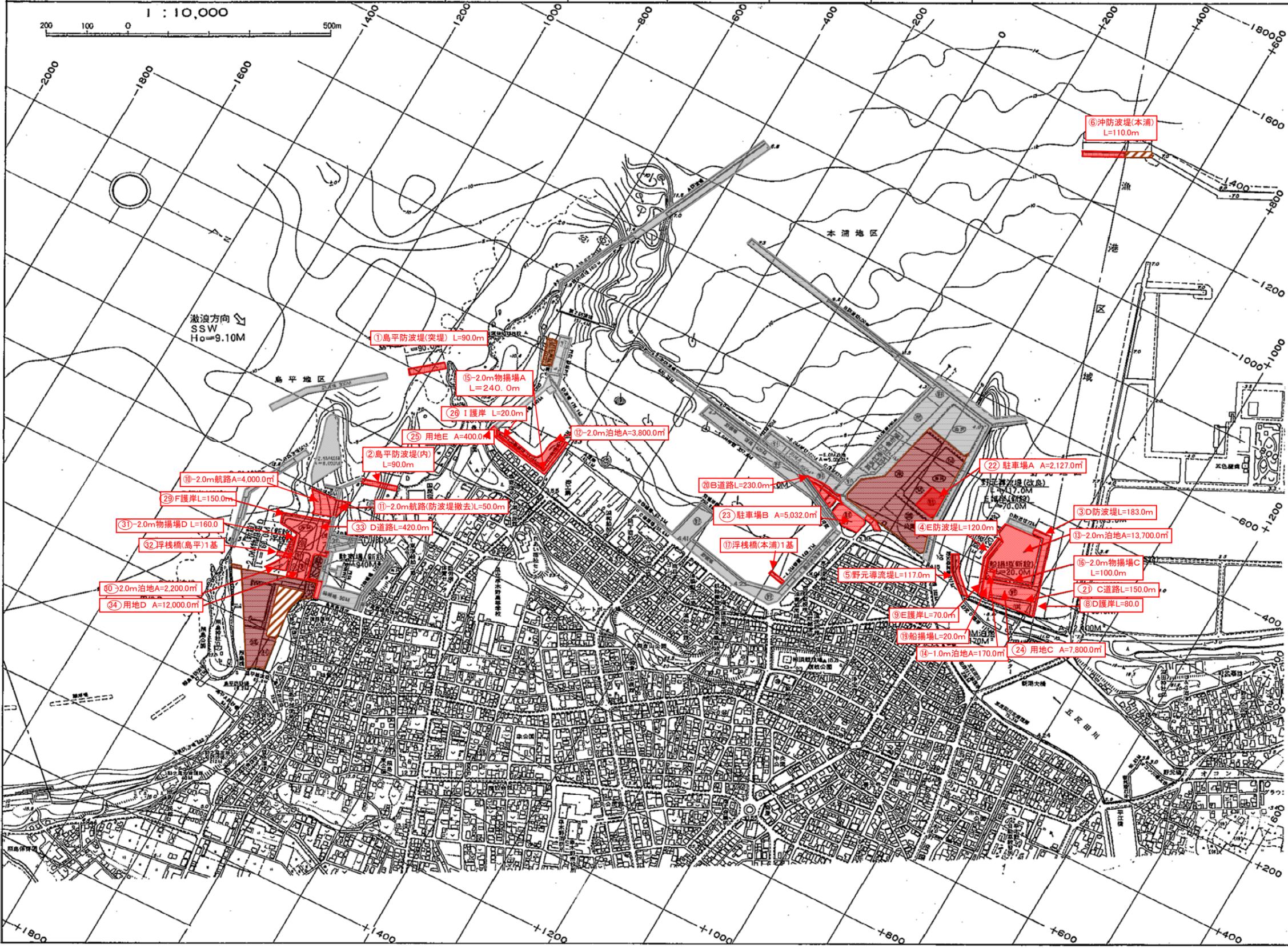


潮位図

H.H.W.L	+4.00
H.W.L	+3.00
T.P	+1.60
M.L.W.L	+0.70
L.W.L	±0.00

凡例

- 平成13年度まで済み
- 当該事業基本計画
- 他事業(H13迄に施工済み)
- 他事業(H14以降計画)
- 平成 年



平成 年 **変更前**